

新薬に関する調査

2019年6月

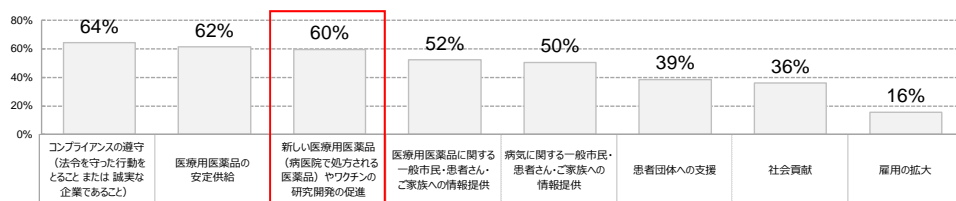


製薬企業への期待

6割の回答者が「新薬やワクチンの研究開発の促進」を製薬企業に期待していると回答。

■「コンプライアンスの遵守」をはじめ、「医療用医薬品の安定供給」「新薬やワクチンの研究開発」「医療用医薬品に関する情報提供」「病気に関する情報提供」で5割以上の回答。

全体 n=2,065



※スコアは「あてはまる」

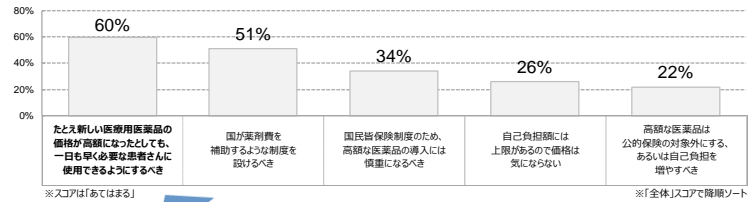
※「全体」スコアで降順ソート

新薬に対する意見

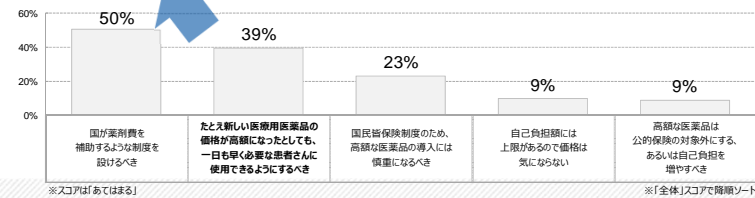
患者団体の活動に積極的な患者さんの約6割が、「たとえ価格が高額になったとしても、1日も早く必要な患者さんに新薬を使用できるようにすべき」と回答。

- 一方で、「国民皆保険制度のため、高額な医薬品の導入には慎重になるべき」との回答は約3割にとどまる。
- 全体の回答では、約4割が「たとえ価格が高額になったとしても、1日も早く必要な患者さんに新薬を使用できるようにすべき」と回答。

患者団体の活動に積極的 n=124



全体 n=2,065

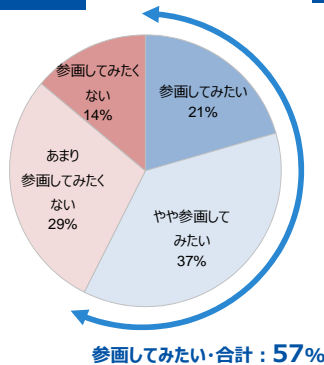


医薬品に関する政策決定プロセスへの参画意向

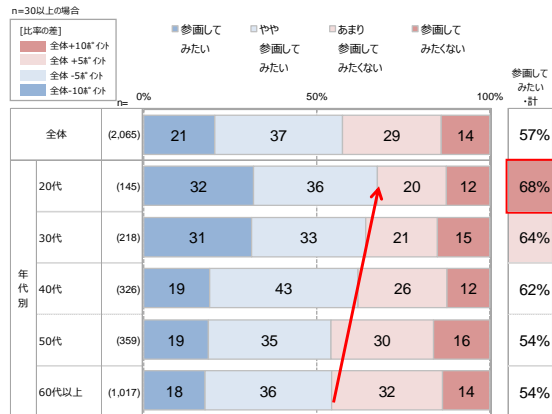
回答者の約6割が医薬品の政策決定に参画してみたいと回答。

- 政策決定への参画意向をみると、「参画してみたい」が21%、「やや参画してみたい」が37%で、参画意向が過半数以上を占める。
- 年代別にみると、年代が低いほど参画意向が高い傾向で、20代は参画意向が約7割にのぼる。

全体 n=2,065



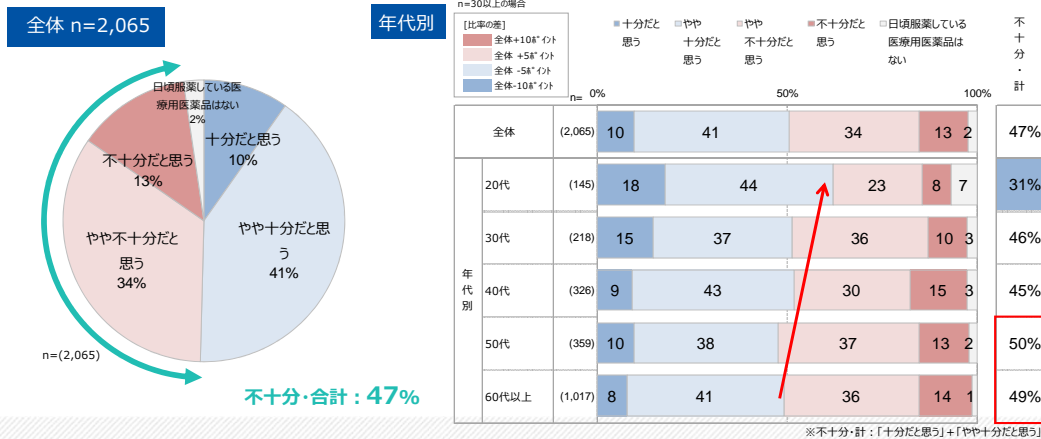
年代別



医療用医薬品に関する情報量

回答者の約半数が医療用医薬品の情報が不十分だと回答。

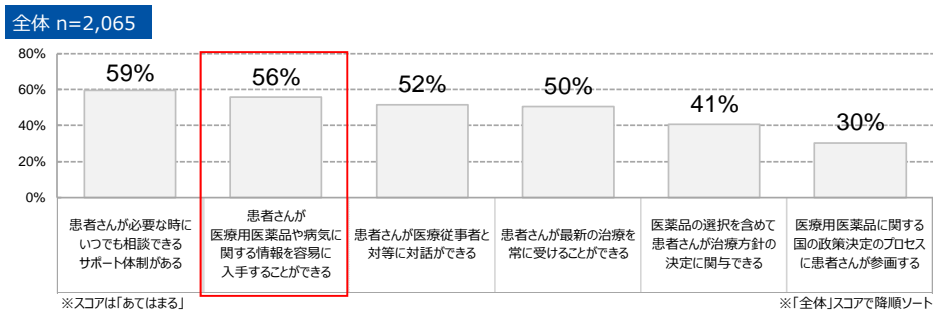
- 医療用医薬品に関する情報量に関して、「不十分だと思う」が13%、「やや不十分だと思う」が34%で、約半数が不足していると回答。
- 年代別に見ると、20代は十分だと感じている割合が他の年代よりも高い一方、50代以上が他の年代より高い傾向。



患者さん中心の医療のイメージ

半数以上の回答者が「患者さん中心の医療」として、「医薬品や病院に関する情報を容易に入手することができる」と回答。

- 「いつでも相談できるサポート体制がある」「医薬品や病院に関する情報を容易に入手することができる」「医療従事者と対等に対話ができる」「最新の治療を常に受けることができる」が半数以上の回答。



これからの日本に大切だと思う産業

医薬品産業が大切と回答した割合が約8割で最も高いスコア。

全体 n=2,065

